

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	伊藤 穂高	学校名	習志野市立香澄小学校
実施学年	5学年	教科	道徳
単元名	指先コミュニケーション!(生成 AI を活用した自作教材)		

《学びを深めたいポイント》

- ・ 本時においては、デジタル機器を介した非対面コミュニケーションの難しさを題材とし、自分の考えと相手の考えの間のすれ違いをどのように乗り越えるかを考察することが核となる。主人公ケンタの立場に立って、ハルキの意図を汲み取りつつ自分の思いを丁寧に伝えるという、相互理解と自己肯定のバランスを図る立場の追体験を通じて、議論の本質を図式化し、多様な価値観の中でよりよい関わり方を見いだす指導が必要となる。
- ・ 児童にとって身近な「グループチャット」という設定を最大限に活用し、実際にタブレット端末を用いて「返信を打ち込む」という体験的な学習を組み込むことで、問題意識を自分ごととして捉えられるようにする。この追体験を起点として、児童一人一人が、自分の意見に固執する心情、または意見を言えない心情に寄り添いながら、主体的に「相互理解」のあり方について多角的に考える姿勢を支援することで、その後の聴き合い学習を充実させることができると考える。
- ・ 児童が考案した様々な「返信」を比較するにあたり、単に「優しい言葉遣い」の有無を判断させるだけでなく、ハルキの考え(クイズ形式)を「尊重」する視点と、ケンタの思い(詳しく伝えたい)を「大切にする」視点の両方を包含できているかという、複合的な価値の受容を視覚的に理解できるよう指導することができるかが重要になる。特に、絵文字や顔文字の使用など、デジタル上のコミュニケーションの特徴についても触れることで、児童の理解がより深まると考える。
- ・ これら一連の指導を通して、児童が対面・非対面を問わず、他者の意見を素直に聞き、謙虚に受け止める「寛容」の心を育むとともに、自分の考えも大切にしながら建設的な人間関係を築く力を育成し、今後の社会で求められる「テクノロジーのよき使い手(デジタルシティズンシップ)」としての資質を養うことを目指したい。

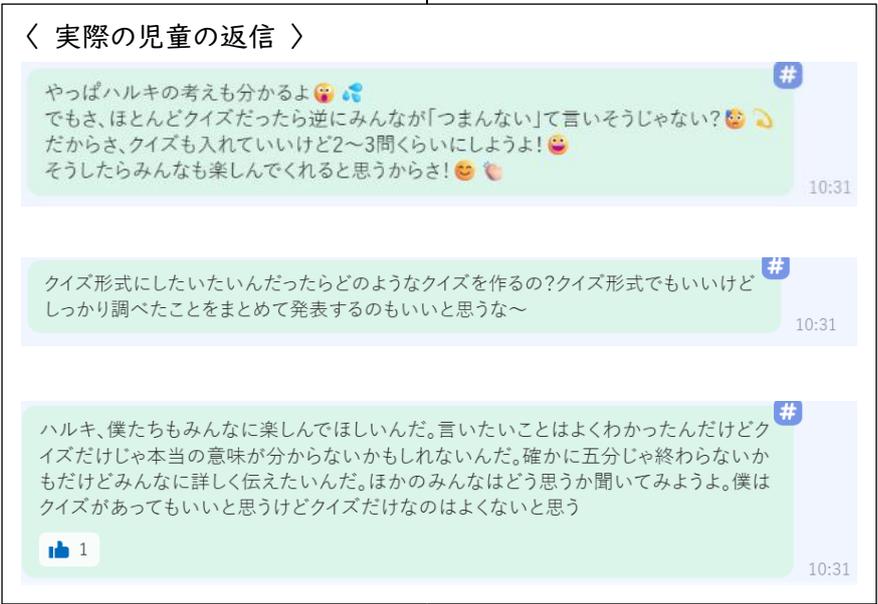
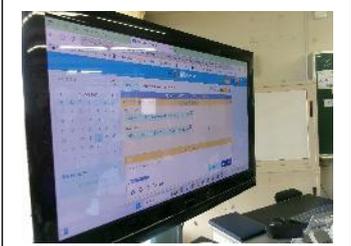
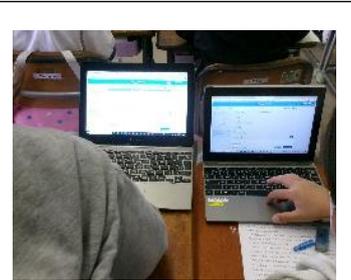
《SKYMENU 活用のポイント》

- ・ 本時においては、SKYMENU の活用が、仮想的なグループチャットの雰囲気再現する上で不可欠である。自力解決の場面で、児童が主人公ケンタの気持ちを内省し、「気づきメモ」機能に「返信」を打ち込むことは、実際のチャットと同じように推敲を重ねる思考プロセスの追体験となり、問題意識を自分ごととして捉えることに繋がる。
- ・ デジタルコミュニケーションの重要な要素である絵文字や顔文字の活用を許可することで、単なる文字情報だけでなく、感情や意図を表現するデジタル特有の方法についても考察を促す。これにより、顔の見えないやり取りにおける言葉の選択の難しさや、表現の意図を相互に理解し合うことの重要性を具体的に意識させることができる。
- ・ 児童が考案した様々な返信内容を、「気づきメモ」のグループ機能を活用し相互に閲覧しやすい環境を提供することは、学習を多角的に深める鍵となる。多くの友達のを瞬時に比較検討し、「自分の思いを大切にする」視点と「相手の意見を尊重する」視点がどのように表現されているかを視覚的に捉えることで、

道徳的な価値の多面性に対する気づきを促し、聴き合い学習の質を向上させることができる。

- これらの ICT 機器を活用した追体験と意見共有を通して、児童一人一人が、対面と非対面のコミュニケーションの本質的な共通点と相違点を明確に理解し、今後の社会で求められる建設的な人との関わり方について考察を深め、柔軟な表現を使い分けられる「テクノロジーのよき使い手」の育成を目指したい。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	1 オンライン上のコミュニケーションにおけるトラブルの一例に触れ、児童の興味関心を引きつけた上で、本時のテーマについて確認し、考えることを捉える。		
展 開	2 資料を読み、ぼくは何と返信を返したらよいかを考えるを通して、相手の思いや気持ちを尊重しつつ、自分の思いを伝える上で、どんなことを大切にしたらよいかについて考える。 ◎ ぼくはハルキに何と返信したらよいだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ハルキの思いも大切にしつつ、自分の思いも伝えるにはどのように返信したらよいかを、「気づきメモ」を活用して実際に返信を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に返信をするという物語の追体験をすることで、児童がより自分ごととして考えることができるようにする。 状況に応じて、デジタル上のコミュニケーションの特徴の一つである絵文字や顔文字を活用してもよいことを伝え、自他それぞれの思いを大切にするためのコミュニケーションにおいて、自分の考えを表現しやすくする。
	<p>〈 実際の児童の返信 〉</p> 		
	○ 一番よいと思う返信を一つ選び、その理由を考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 「気づきメモ」で共有したそれぞれの返信から、一番適切だと思う返信を一つ選び、理由を考える。 	 

	3 自分の気持ちも相手の気持ちも尊重するためにはどんなことが大切かを考えることを考える。		
ま と め	4 本時で考えたことを振り返る。		

《実践を振り返って》

【成果】

- ・ 「気づきメモ」機能によるメッセージの「推敲」と「返信作成」の追体験を通して、対面とは異なるデジタル上の発言責任と緊張感を児童が実感できた。
- ・ 絵文字や「～」といった記号の活用を考察したことで、デジタルならではのコミュニケーションにおける感情や意図の伝達の「よさ」と「難しさ」を具体的に学ぶことができた。
- ・ クラスメイトの多様な返信をリアルタイムで相互に閲覧できたことで、「自分の思い」と「相手の尊重」を両立させる複合的な価値観を多角的に比較検討でき、聴き合い学習が深まった。

【課題】

- ・ 絵文字等のデジタル表現について、単なる感情表現に留まらず、「文脈を補完するツール」という機能的側面まで掘り下げた考察に至らなかったため、より丁寧な指導を加えていく必要がある。
- ・ デジタルコミュニケーションの本質的な課題（非同期性、文脈の欠如）について、より深く踏み込んだ指導内容を検討することで、デジタルツールを意図的に使いこなすリテラシーの育成の確実性を高める必要がある。